



# 介護支援専門員協会ニュース

2003.6.20 発行 年2回発行

## 第9号

発行所 徳島県介護支援専門員協会  
阿波郡阿波町字北整理 1 1  
0883 35 6085  
徳島事務局 088 669 3001  
http://www.netwave.or.jp/ tcma/

### 「日本ケアマネジメント学会」四国から

去る三月十六日、介護支援専門員を中心に六百余人を集めて、松山市で「日本ケアマネジメント学会」が主催する「日本ケアマネジメント学会」四国が主催された。四国の介護支援専門員が一堂に会しての大会は、報酬改定や介護支援専門員業務の見直しに對し時を得た開催となり、熱気に包まれたものとなった。



日本ケアマネジメント学会は昨年第一回研究大会を開催したという、生まれて間のない学会で、まさにケアマネジメントの実践者が、ケアマネジメントの実践者である私たちケアマネジメント研究の第一人者ともなっていていく学会であるといえる。その第二回研究大会が、六月二十日に名古屋市内で開催された。そこでは、「認定ケアマネジャー」制度の創設などが話し合われることとして、注目されるものとなりそうだ。

さて、その「日本ケアマネジメント学会」四国での概要を、若干見てみたい。まず、橋本泰子氏の「ケアマネジャーに期待するもの」と題した講演の中から、「私たちがカンファレンスの場で使っている言語が、ペーパースとなる職種によってグルー

プ化でき、それらが医療や、身体、生活、心理、社会を座標とした中にそれぞれ位置づけられるという。ところで「サービス担当者が誤用して、合議と協働が主眼で、利用者や支援者が意思統一すること第一となる。であるから専門用語が飛び交う中から、共通理解を得られるように言葉を用いていくことが、ケアマネジメントの真髄であるといえる。これは、利用者への交付が義務付けられたケアプランについて、厚生労働省の矢部正治氏が「利用者の理解できる表現でなければいけない」と言ったことと同じ部分だろう。つまり、ケアマネジャーに必要な資質のひとつとして、専門用語をわかりやすく翻訳できる能力が求められているといえる。午後、四国各県リレー報告

で、徳島県介護支援専門員協会からは大塚会長が報告。各県の取り組みや組織の概要が比較でき、四国がひとつに手を結ぶべきだという力が感じられた。続いて、白澤和氏をコーディネーターに「今、改めてケアマネジメントの質を問う」と題したシンポジウムが開催された。時間が短くやが不完全燃焼の感があったが、語られた内容はとても濃いものだった。最初に、矢部氏の介護保険の現状と介護報酬改定等についての報告から、

宅系介護支援の指定基準の見直しについて、今更別紙面に割いて論じられているので改めて論じていくまでもないが、できていないにも関わらず八五〇単位請求することは不正請求ですよと明言しての報告から、



また、ケアマネジャーの質向上とその支援強化は国の急務であるとして、実務研修をケアマネジメント技術の習得に重点を置くよう改訂されることだ。そして、現任研修も基礎と専門課程にわたる手法を充実させ、特に専門研修課程ではスーパーバイザーの手法を取り入れるようだが、さて、誰がスーパーバイザーを担うのだろうか。ケアマネジメンターがその中核になるべきだと考える

が、小グループでのスーパーバイジョンが有効であるとして、サブリーダーの養成が都道府県で急務となるだろう。次に北海道大学の前沢政次氏は、ケアマネジメントの質に関する評価の基準で、この問題、そして利用者や家族の満足度に対する指標作りの困難さについて取り上げた。ケアや人生に対する受け止め方は、その人その人で違い、ケアプランに何をどう表現するかは、ケアマネジャーにとって永遠の課題であるといえるだろう。交付しなければならぬといっただ中で、そのほか、虐待の問題、癌の告知など、山のように立ち上りしているケアマネジャーが、前沢氏も言葉について、ケアマネジメントは学際的、他職種による作業だから外来語を避け、可能な限り日本語で議論できるようにしていきたいとして、共通用語を使う努力を訴えた。

## NPO法人化に向けて

今年四月に行われた介護報酬改定では、ケアマネジメント業務が報酬として評価されることとなり、今後さらにケアマネジャーへの期待と賞が求められることとなり、ますますにケアマネジャーへの期待が高まっています。

さて、徳島県介護支援専門員協会は、全国で最も早く、平成十一年三月三十日に発足し、保健・医療・福祉の幅広い分野のさまざまな職種が集まり、研修会・講演会などを行い、今年で五年目を迎えることができました。そこで、今後さらなる活動を行っていくにあたり、当協会ではNPO法人化に向けて準備を進めております。

他府県ではすでに神奈川県や青森県の介護支援専門員協会がNPO法人格を取得しており、全国では近々改正となる介護保険制度に向けて日本介護支援専門員協会設立の準備がスタートしようとしております。これはケアマネジャーの資質の向上と地位の確立を図ることを推進していくことを目的とするものであり、その四国地区代表を徳島県で行うこととなりました。今後は周囲との連携を図り、県内だけでなく、四国地区のケアマネジャー同士の交流を深めていきたいと考えております。

当協会の新しい活動といたしまして、徳島県の委託事業を受け、7月からケアマネジャーのための相談窓口業務を開始いたします。当分FAXなどによる受付のみとなっておりますが、近日常には電話相談など行っていきたくと思っておりますので、ケアマネジメント業務に関する悩みについてどうぞご利用ください。また、今後後もっと多くの研修会・講演会などを開催したいと思っておりますので、ぜひ今後とも徳島県介護支援専門員協会をよろしくお申し込み上げます。

(徳島県介護支援専門員協会事務局)

## 平成15年度介護支援専門員協会定期総会開催!

平成15年	14:00~14:30	定期総会	アステイ徳島 祥雲閣
	14:40~15:10	事例検討会	
7/19 (土)	15:15~16:45	記念講演会	
	17:15~	懇親会	

別途案内チラシと返信用書をお送りいたしますので、必要事項にご記入いただきまして、当協会事務局まで必ずご返送ください。なお、定期総会にご欠席される方も委任状が必要となりますので、ご署名いただきましてご返送ください。ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 講師略歴紹介

氏名	前沢政次(まえざわまさじ)
出身	茨城県土浦市
学歴	昭和46年 新潟大学医学部卒業
職歴	昭和46年 国立東京第一病院内科研修 昭和49年 自治医科大学内科 昭和55年 自治医科大学地域医療学講師 昭和59年 自治医科大学地域医療学助教 昭和63年 宮城県湧谷町(やくやちょう)町民医療福祉センター所長・湧谷町国保病院院長
主な役職	平成8年 北海道大学医学部附属病院総合診療部教授 日本プライマリ・ケア学会 乗務理事(医学教育担当) 日本ケアマネジメント学会 副理事長 全国国保診療施設協議会参与
主な著書	『介護保険ハンドブック』医学書院(編著) 『ホームケアリハビリテーション基本技能』医学書院(編著) 『プライマリケア医学』医学書院(編著) 『介護保険活用マニュアル』南江堂(編著) 『地域空同化時代における行政とボランティア』中央法規出版(共著) 『看護職のための介護保険マニュアル』メディカ出版(監著)

最後に、我が国では高齢者福祉に次いで、障害者援助においてケアマネジメントの手法が活用され始めている。そのような中で援助対象や各論は違つたろうが、学びあう部分は数多くあると思う。日本ケアマネジメント学会に対して、高齢者に限定しない幅広い運営と交流を期待したい。

(大下 直樹)



# 良いケア 質のよいサービスを求めて 報酬改定へのとりくみ

## 介護保険制度改正に伴う療養病棟の変化

平成十五年四月に介護報酬が改正され、要介護の高いものが評価されています。しかし、利用者数の職員配置では看護六対一、介護三対一が廃止され、看護六対一、介護四対一となっております。

そこでマイナスイ報酬の要介護一〜三では八八〇を有効に行い、早く在宅介護に転換する努力が必要になります。要介護四、五はわずかな差がありますが十三〜六十一単位のプラス報酬のため、当然多くの利用者を獲得する方向になります。

しかし要介護四、五の方は気管切開や嚥下障害に伴う頻回な喀痰吸引点滴・注射の管理・経営栄養に伴う経鼻チューブの管理や胃瘻の管理、皮膚障害に伴う処置と医療処置が多く、また脳梗塞で全身の代謝が

低下している方には、療用症候群の予防のための看護・介護の工夫が絶えず必要になります。

介護一、二の方に介護の手間がかからないわけではありませぬ。要介護の低い方には理解力不足による問題行動や不潔行為、または片麻痺によるためADL全般に一部または全介助を要する方が殆どです。

介護報酬に對する経営戦略も絶えず検討しながら、利用者の方にはできるだけ快適な療養生活を送っていただくために、人員配置は変われども施設サービス内容は質を落とさず提供することが望まれます。私たち療養病棟職員として今後、利用者の長期の目標の自立を目指して毎日の援助を行っていきたく思います。

## 通所介護の課題と問題点

よしの園 大戸井美生

介護保険が導入されて早、三年が経ちましたが、この間、試行錯誤の連続で、サービスの中身のあり方を考えて、どれほど多くの従事者が悩んできたことでしょうか。とりわけ通所介護系の中でレクリエーション(以下、レクという)の展開と位置づけには、今なお多くの従事者が現在進行形で苦慮されているのではないのでしょうか。

私達の職場での話をモデルにするならば、痴呆を有する者とそうでない者が、共に介護の提供を受ける必要のある時と場所を共有しなければならぬという、一つの問題が出てきます。もう一点は、文頭でも述べましたが、レクの展開です。食事・入浴・送迎といったも

の以外に、生活の質の向上という目標の中で、この両者の問題は切り離すことができないと言えるでしょう。

さて、この二つの問題点のうち、ここでは二点目のレクについて考えてみることにします。レクを行うについては、何をを行うかという種類について、どこで行うかという場所について、二点が考えられます。このうちの種類については、各々の施設での創意工夫が展開されているでしょうから、特に外部で行いたいという、場所が問題となるレクについて考えてみます。

基本的に通所介護は事業所内で行われるものであるというところが国からも示されているのは周知のことではありますが、機能訓練の範囲としてのレクであって、年間事業計画に位置づ



けられているものであれば、介護保険として行うことは可能ですので、ここに場所という問題のレクの種類に可能性が広がってきます。

事業所内だけのレクでは張りがないという利用者の言葉の中には、では、いかに介護保険の中期を迎えているのではないのでしょうか。



て外部へのレクの可能性を広がていくかということも、もっともっと考える必要が出てくるのではないのでしょうか。

定められた枠の中で、最大最高の利益が利用者や事業者の双方に得る事ができるような創意工夫を巡らせていく、という時期を迎えているのではないのでしょうか。

## その人らしく生きるユニットケア

ケアラザ美馬施設長 大塚 智子

介護保険制度が始まって三年が過ぎ、ますます、在宅重視自立支援の傾向が強くなった。高齢者にとっても住み慣れた我が家で暮らしたい意向は非常に強い。施設入所するということは、自分の生活サイクルで他人に気兼ねなく生活することが奪われ、施設の決められた日課に準じた集団生活があり、そしてそれは自分が今まで生きてきた暮らし方からかけ離れることに窮屈さがあり、八十年九十年生きてきて、いまさら人にとやかく言われた生活は送りにくいのが心情ではある。しかしながら、いくら在宅の制度が整っても、独居高齢者にとって、生きとし生けるまで我が家で暮らすことは非常に難しい。老いが

避けて通れない問題となっており、施設も集団の生活の場ではなく、家庭的雰囲気を持って小単位で対応するユニットケアやグループホームが台頭してきた。施設にありながら在宅に近いケアをモットーに、職員も従来の業務ローテーションを合せて作らず、個別の生活に合わせて対応を目指す中で、ますます個別のコミュニケーション量、適切な見守り、チームワークの重要性を感じる。職員配置においても、入所者三人に対して一人の職員配置であったとしても、一日二十四時間から見れば、昼間でも職員一人で六人入所者に対応することになる。その意味でも、何人かの上乗せ人員配置は必須となる。合わせて、隙間のない気づきのケアがますます必要となる。集団の良さである人とかかわ



る刺激を受け、一人暮らしの夜の怖さ、不安を除き、在宅のように気兼ねない快適な生活ができるユニットケアを目指し、ケアラザ美馬も十人単位のユニットの介護老人福祉施設として発足した。よい意味での二十余年の経験と新たなユニットケアに四苦八苦の毎日である。

## 介護報酬改訂にあたって

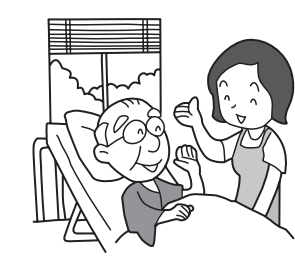
ヘルパーステーションゆず 正木 美帆

ヘルパーステーションゆずは高齢者や障害者の在宅生活に少しでもお役に立てたらと、昨年三月に開設した小さな訪問介護事業所です。

「ゆず」での、昨年度の訪問内容は平均して家事三・五対複合三・五対身体三の割合で、比較的複合や身体介護の多い状況だったと思えます。今年度はまた四月のみですが、生活七・五対身体二・五の割合でした。これは四月の新規利用者がほとんど生活援助のかかわりであったことと大きく影響していますが、介護報酬改訂の影響も多々あると思われまます。これまでの利用者の中で、支給限度額や利用料負担増加の関係上単価の安い生活援助中心のケアプランに変更

せざるを得ないケースがあり、また身体介護に二人のヘルパーを派遣していたケースが限度額の関係上一人派遣に変更したこともありました。

ヘルパーの援助を必要とされている方は、高齢世帯の方が多く、ヘルパーの存在は在宅生活を続ける上で欠かすことのできないサービスになっています。回数や時間を減らすことは高齢世帯の方はまず無理です。また限度額は残っていますが、金だけでの生活では介護費用は十分に負担がかかって困ります。現実の高齢者の生活状況を考える。今まで複合介護であったサービスを生活援助の単価の安い方に変更できないかと、申し訳なさそうに相談されるケアマネジャーが多かったです三月でした。結局、新聞等で報道された訪



問介護は三〇%増！なんて現実には望めず、経営的には介護報酬改訂後も「ゆず」ではほとんど変化はありませんでした。

ヘルパーの力量は地味ですが、個々の仕事をあらゆる面で問われるともやがたいのある仕事だと思えます。人間性を豊かにするたくさんの学習が必要な仕事です。介護報酬には是非このような点も動案して決めて欲しいものだと思います。

今、話題の「パワーリハビリ」&映画のおすすめ



「パワーリハビリテーション」の紹介

うぐいすりハビリ研究所 鷺 春 夫

今年度より、厚生労働省は介護予防の観点から、「高齢者筋力向上トレーニング事業」として自治体等への支援を始めた。そこで、今注目を集めているのが「パワーリハビリテーション」以下「パワーリハ」と略す。です。平成十五年三月三十日に徳島県理学療法士会が開催した地域リハビリテーション交流セミナーにおいて、「パワーリハ」をメインテーマにしたところ、多くの参加者を得ることができました。



具体的には、品質や安全性、機能の検証・認証を受けた六種類のマシンを用います。そして、それぞれのマシンの十回程度の「楽な」繰り返しが可能な負荷量を設定した後、週二回の頻度で三ヶ月間実施し、最終評価を行います。また、一回のプログラムは準備運動を十五分、マシントレーニングを六十分(六種類のマシンを各十回実施を一セットとして、最大三セットまで)、整理体操十五分の計九十分で構成するのが一般的です。なお、負荷量は漸進的に増加させます。

具体的には、品質や安全性、機能の検証・認証を受けた六種類のマシンを用います。そして、それぞれのマシンの十回程度の「楽な」繰り返しが可能な負荷量を設定した後、週二回の頻度で三ヶ月間実施し、最終評価を行います。また、一回のプログラムは準備運動を十五分、マシントレーニングを六十分(六種類のマシンを各十回実施を一セットとして、最大三セットまで)、整理体操十五分の計九十分で構成するのが一般的です。なお、負荷量は漸進的に増加させます。

痴呆と取り組む家族の介護体験記を原作にした映画「折り梅」が徳島県内各地で上映されています。この映画は私たちが家族の愛を知り、支えあふ家族の姿を描いた「忘れても、しあわせ」を下敷きにし、介護家族やデイサービス実施施設などを松井監督が取材し制作されました。映画「折り梅」は、義母が一人暮らしをする団地から始まります。政子は団地で周りの高齢者の面倒をよく見るしっかり者ですが、一人暮らしに不安が出て来て三男の家族と同居することになります。ところがまもなく政子の様子がおかしくなり、雑巾を縫ってはそれを忘れてしまい、毎朝嫁の巴に雑巾を渡す。かと思えば突然怒り出したりなど、さまざまな症状が出てきます。巴は嫌がる政子を受診させます。政子はアルツハイマー型痴呆と診断されます。「折り梅」は義母がアルツハイマー型痴呆症となり、介護のためにバラバラになりかけた家族が、さまざまな出来事を経て再生していく過程を実話に基づいて、人間の無限の可能性を描いた作品です。上映会は好評です。ぜひご参加ください。

ケアマネジャーによる ケアマネジャーのための相談窓口業務開始！

事務局からの お知らせ

折り梅

当協会では、県の委託事業と致しまして七月からケアマネジャーのための相談窓口を開始いたします。当分は、FAX、Eメールなどによる受付のみとなりますが、近日常には電話相談も行っていきますので、ケアマネジャーはますます注目を浴びると思われま

平成十四・十五年度 会費納入のお願い！

当協会では、設立当初よりホームページを新規開設しておりますが、更新ができておりませんが、今年度より、新たな活動の開始を期に、ホームページを更新し、会員の皆様方によく活用していただけるよう努めて参りたいと存じます。会員の皆様方へ、ホームページ作成に詳しく、ご協力していただける方を募集いたします。ご希望の方は協会事務局までご連絡ください。

急募 ホームページ 新規作成・更新につき、ボランティア募集！

当協会委員会の 紹介・メンバー募集！

平成十四年度分の会費についてまだ未納の方がおられましたら、早急にお支払ください。二年経過後自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。なお、納入状況が分からない方は、事務局までご連絡いただきましたお知らせいたしますので、よろしくお願いいたしまして

協会入会希望者を 紹介ください。

介護支援専門員の集いの企画・運営

介護支援専門員協会 ニュース第七号を迎えましたが、今回は各委員会の大きなセミナーもなく、どの様に紙面を構成しようかと考えてしまいました。ただ、初めての報酬・要介護認定等の改訂が行われ、皆様の現場では、月一回の居宅訪問の履行、サービス担当者会議をどうやって開催しようかなど色々な問題も多々あるかと思われ、それを一面に大きく取り上げましたが、参考になりましたでしょうか。次回以降の第十号を迎えるに当たり、皆様からの「意見・ご要望があれば、どしどし情報を頂き、満足していただけるよう広報委員会としてがんばりたいと思います。今後とも宜しくお願いいたします。

編集後記

徳島県介護支援専門員協会入会状況

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長総数, 副会長) and Count (e.g., 107, 17).